

令和7年度 台東区立柏葉中学校 学校経営計画

台東区立柏葉中学校長

川口 典子

1 教育目標

◇台東区教育委員会の教育目標◇

子供たちが心身ともに健康で、人権尊重の精神を基調としつつ人間性豊かに未来を創造する人材に成長することを願い、

- 互いの人格や多様性を尊重し、思いやりの心と規範意識をもつ人
- 個性や豊かな創造力、健やかな体を持ち、自ら学び、考え、行動する人
- 台東区の歴史・文化に誇りをもち、地域社会を愛し、発展に貢献できる人の育成に向けた教育を充実する。

また、だれもが生涯にわたり自己実現に生きがいを見出し、学びを継続し、心豊かに人生を送ることのできる生涯学習社会の実現を図る。そして、あらゆる世代が豊かな人間性を養い、心身ともに健やかに成長することができる多様な機会を創出する。

◎本校の学校教育目標◎

- 〈 自主 〉 知を求め、技を磨く
- 〈 共生 〉 命を貴び、共に働く
- 〈 健康 〉 体を鍛え、心を耕す

社会の中でよりよく生きていけるようになるため、自他共に尊重する精神を基調に、生徒一人一人が知識や技能を習得し、これを活用する教育活動を展開する。「生きる力」を育成し、主体的に自己を鍛え、社会の変化に柔軟に対応できる創造的で人間性の豊かな、そして、社会の発展に貢献することを通して自己実現を志す生徒を育てる。

2 目指す学校像

① 安心・安全、清潔な学校

自他の命が一番大切であるということを基本とし、学校における事故を未然に防止する。ルール、マナーはもとより、遺法行為のない生活により保障する。

② 生徒が自己を鍛える学校

困難な課題に対しても、粘り強く取り組める生徒を育成する。

③ 地域社会に貢献する学校

確かな職業観や勤労観を身に付け、地域社会に貢献しようとする精神を育む。

④ 地域の伝統や文化を継承する学校

地域の伝統技能や神社仏閣、史跡などの教育資源を活用し、地域を大切にし、心のふるさとを実感できるようにする。

3 目指す生徒像

- ① 自ら判断し、主体的に学ぶ生徒
- ② 自他の生命を尊重するとともに、互いに認め合い、共に伸びゆく生徒
- ③ 個性を伸ばし、心身共に健全な生徒
- ④ 将来に向けて地域社会に貢献できる生徒

4 目指す教職員像

- ① 指導力の一層の向上を図るため、研修に努め学び続ける教職員
積極的な教材研究と発問の工夫、授業改善、指導と評価の一体化
- ② 生徒の心に寄り添い、信念をもって指導・支援をする教職員
声なき声を聴き、生徒の成長を信じ、生徒の個性を的確に引き出す
- ③ 社会人として規範を示せる教職員
指導者としての言動、公務員として服務遂行、規律遵守、人権感覚の醸成

5 中期的目標と目標達成の方策

「目指す学校」の実現をより確かなものにするため、次の中期的な目標と目標達成の方策を策定する。

	中期的目標	目標達成の方策
(1)	生徒・保護者が「登校したい・登校させたい」と思う、地域に根付いた学校にする	<ul style="list-style-type: none">・「安心・安全」を第一に、危機管理（リスクマネジメント）を意識し、問題発生時には早期発見・早期対応（クライシスマネジメント）を徹底する。・家庭の状況把握と緊急対応に資するため、生徒の自宅確認を行うとともに、保護者への連絡を日常的にとり、よりきめ細やかな指導を行う。・地域の行事に生徒を積極的に参加させるとともに、学校内外の活動や様子が、保護者や地域によく理解されるように広報活動を活性化する。
(2)	生徒の基礎学力を定着させるとともに、一層の学力向上を図り、進んで学習できる態度を育成する	<ul style="list-style-type: none">・組織的に授業力の向上を目指すことができるよう、OJT体制を構築し、全授業の質を高める。・生徒の学習内容の理解深化や家庭学習の習慣化に資するよう、1人1台端末の効果的な活用を図るとともに、補充学習を充実させる。・保こ幼小中一貫教育を推進し、連携の日の取組でファミリー相互の連携を図る。また、小中の接続を一層推進する。
(3)	生徒の特性やニーズを理解し、個に応じた指導と支援を行い、社会性や情緒の安定、自己肯定感の向上を図る	<ul style="list-style-type: none">・特別な支援が必要な生徒に対し、適切な教育的支援をするため、その手立てを共有し、特別支援教育を一層推進する。・特別支援学級において、生徒一人一人の実態を把握し、適切な指導と支援を通して自立と社会参加に向けた主体性を養う。・特別支援学級や難聴通級指導学級が設置されていることを生かして障害者理解を推進する。・特別支援COや不登校対応巡回教員、特別支援巡回教員と連携して個に応じた支援を行う。

6 今年度の重点目標と具体的な方策

	教育活動の目標	目標達成の方針
(1) 学 習 指 導	① 生徒にとって分かる授業の実践	<ul style="list-style-type: none"> • 学校評価の肯定的評価80%以上と、生徒による授業評価の積極的活用。 • 授業力の向上を常に意識した教師集団を作る。 • 授業の「ねらい」「ふり返し」を意識した授業展開の実践。また、質問ができる生徒の育成。 • 授業と評価の一体化を意識した授業改善。 • 他者と協力して主体的に学習に取り組む態度の育成に向けた言語活動の充実と、協働学習や課題解決学習などの主体的・対話的で深い学びの実現。
	② 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着・向上	<ul style="list-style-type: none"> • 教科教室型教育を継続した教室環境の整備。ICTを活用して興味・関心を高め、意欲的に課題を探究する態度の育成。 • 漢字の読み書きや数学の計算、英語のスペリングなどのコンテストの実施。 • 質問教室や放課後学習教室（柏葉アカデミー）の充実。また、様々な習熟度の生徒に対応した講習についての長期休業日中の実施。 • 生徒の興味関心を高めるタブレット等のICT機器の効果的な活用。
	③ 生徒の自己肯定感と自己有用感を高める特別活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> • 土曜授業公開日（4日間）を授業日とし、授業時間を確保するとともに、学校行事や生徒会活動を精選・充実させる教育課程を編成・実施する。 • 「特別の教科 道徳」を中核とした道徳教育の推進。美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、生命を大切にする心、他人を思いやる心、自己抑制力、責任感、他者との共生や異なるものへの寛容など、豊かで柔らかな感性の醸成。 • 協働学習などの学び合いや学校・学年行事等に協力する取組を通して、自他の考えやよさを認め合う態度の育成。 • すべての教育活動を通して、スポーツ、文化の大切さや健康・安全に関する指導を展開し、心身の健康と体力を向上させる。

<p>(2) 生活指導・進路指導</p>	<p>① 生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせ、社会性・規範意識を育成する</p> <p>② 主体的に進路選択・決定ができるとともに、将来地域社会に貢献しようとする意欲の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 日常的な服装・身なり・挨拶・聞く態度・話す言葉・時間遵守等の指導による、問題行動の未然防止。 • 保護者・PTAとの連携および、地域・関係機関との連携強化。 • 学校保健計画による生徒の心身の健康維持・向上。 • 教育副読本「こころざし高く」を活用して、先人の生き方に学び、自らの将来に目標をもつことができる生徒の育成。また、第2学年で立志式を行う。 • 教育活動全体を通してキャリア教育を推進するとともに、キャリアパスポートの適切な活用。 • 職業講話や江戸指物・革細工工芸の体験活動等を通じた地域理解の推進。
<p>(3) 人権教育・特別支援教育</p>	<p>① 人権尊重の精神をもって、一人一人を大切にす教育の推進</p> <p>② 特別支援学級、難聴通級指導学級の設置校である特徴を生かした障害者理解の推進と、特別な支援を要する生徒への一層の理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 生徒理解を深めることにとり、生徒の個性・人権を尊重した指導の徹底。 • 身近な人権課題を理解するとともに、偏見や差別を解消しようとする態度の育成。人権講話、人権作文、人権標語などの取組による生徒の人権意識の向上。 • いじめ、偏見を許さず、望ましい人間関係を築くことができる資質や態度の育成。 • 特別支援学級・難聴通級指導学級の生徒との交流を通して、共に生きる心の醸成。 • 特別支援学級では、健康で明るい生活を送るために必要な学力や基本的な生活習慣・態度を身に付けさせる。また、職業生活への適応を図ることを目指し、日常生活や実習を通して、生産・流通・消費など産業社会への理解を深めさせ、社会生活に参加する能力を向上させる。 • 難聴通級指導学級では、聴覚管理を適切に行い、他者と円滑にコミュニケーションを行う力を高める。また、聴覚障害の状態に応じて指導内容を精選するとともに、聴覚を最大限に活用した効果的な学習活動を展開する。 • 特別支援教室では、困り感のある生徒の集団適応能力を伸張させる。また、全教員が全ての生徒にとって分かりやすい授業を実施することで、全ての生徒にとって良い効果をもたらすようにする。 • 不登校、別室登校の生徒の行動変容を目指し、不登校の改善や教室復帰に向け個々にあった対応を組織的に推進する。

(4) 学 校 予 算	① 限られた予算の効率的な活用	<ul style="list-style-type: none"> • 予算の計画的な執行の工夫と既存の教材教具の効果的な活用（在庫の確認）。 • 電気・水道・紙・インク等の使用についてのコスト意識の涵養。 • 様々な資料のペーパーレス化推進。
(5) 事 故 ・ 問 題 行 動 へ の 対 応	<p>① 事故・問題行動の未然防止</p> <p>② 日頃より事件・事故発生時の危機意識をもつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 安全点検で確認した危険箇所や破損箇所の修理。 • 問題行動に対する適切な初期対応。 • 状況、情報の速やかで正確な報告と組織的な対応。 ※ほう（報告）れん（連絡）そう（相談） き（記録） た（対応） か（確認） 《必ず時系列での記録を》 • 経過や指導・対応方針についての全教職員の共通理解と行動連携。 • 保護者に対する説明責任と対応策の確実な伝達。
(6) 働 き 方 改 革	① ライフワークバランスを意識した効率的な業務進行	<ul style="list-style-type: none"> • 計画的で先を見通した仕事の進め方。 • 意識的な定時退勤日の設定。 • 年間を通して最低5日の日単位の年休取得 • 自らの仕事の効率化と取舍選択。 • ビルドは大切。スクラップも大切。